

2015 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

平成 28 年 2 月 27 日

内容

内容	2
はじめに	3
各事業報告	
<u>I 保護・保全・支援事業</u>	4
1. シマフクロウの生息調査、生息地パトロール	
1) 繁殖ペア等の行動調査及び生息地パトロール	
2) 環境状況の把握と生息確認調査	
3) 給餌池におけるシマフクロウ等の利用状況調査及びメンテナンス	
4) 調査パトロールのための募金活動	
2. シマフクロウの繁殖支援	5
1) 補助給餌	
2) 給餌のための募金活動	
3. 植林メンテナンス	6
4. その他	
<u>II 普及・啓発事業</u>	7
1. 人財育成	
1) 研修講師受託	
2) 保護の担い手等の募集	
3) その他	
2. 環境教育	8
1) 出前授業「シマフクロウ学習」	
2) 保全ボランティア	
3) 観察小屋の活用	
3. 広報事業	10
1) スライド・トークの開催	
2) ホームページやSNSによる課題発信	
3) イベントによる広報	
4) 印刷物による広報	
① サポーターへの情報発信	
② 地元への情報発信	
③ 広く多くのセクターへの情報発信	
5) メディア取材	
団体概要	14

2015年度 事業報告

2015年1月1日から2015年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

シマフクロウ・エイドの活動は、現代表理事がシマフクロウの保護・調査に長年携わるなかで、次世代の担い手や、関係地域への普及啓発がない状況下での保護活動の継続を危惧し、生息環境を包括的に保全していくために、関係地域が主体となって、シマフクロウをはじめとした野生生物の保護・保全が行われていく姿の構築を目的に、有志とともに2008年にNPO法人を設立し現在の活動を展開するに至っています。シマフクロウの保護活動は、1984年から国や研究者等によって始められ1993年から現代表理事も加わり、地道な活動の成果により個体数は徐々に増加しましたが、生息地の保全は追いついておらず、シマフクロウは未だ絶滅危惧種のトップランクに指定されています。調査研究に携わる者の高齢化も深刻で、次世代の保護の担い手の育成が急務です。関係者だけでなく、生息地の保全を視野に入れた関係地域の理解や協力を推進していくことが重要と認識し、これまで続けてきた調査・パトロールなどの取組みに加え、様々な普及啓発を推進しています。

シマフクロウの保護・保全を進める基盤となる各調査や生息地パトロールは、昨年建設した観察小屋や調査機材を活用し、鳥への負担をさらに軽減しながら調査精度を向上することができ、本年も通年にわたり取組みを続けています。

シマフクロウの繁殖を支援する補助給餌は、活魚購入代の100%をおさかな寄付で賄うことができました。個人や法人、団体の皆様が、シマフクロウ保護に間接的に関われる支援方法として確立しつつあります。

シマフクロウをテーマとした環境教育「シマフクロウ学習」は本年で3年目の実施となり、屋内外で一つのプログラムとして計画通り実施することができました。

広報では、講演やイベント SNS など各場面で、課題を共有し解決方法を探りました。アンケートや意見交換では、貴重なフィードバックを多数いただき、サポーターや賛同者の皆様には、ボランティアで当活動の広報や募金にご協力をいただきました。

この報告書は、2015年1月1日～12月31日迄の活動についての概況をまとめ、お伝えするものです。

各事業報告

I 保護・保全・支援事業

1. シマフクロウの生息調査、生息地パトロール

はまなか農地水保全協議会助成

シマフクロウの保護・保全活動を適切で効果的に進めるために、既存の繁殖ペアの行動調査や生息地パトロール、繁殖確認調査、繁殖の可能性がある地域における生息確認調査を1月から12月までのべ329日実施しました。この活動で得られた成果や課題は、環境教育や、講演、イベントなど普及啓発の推進に活用しました。

1) 繁殖ペア等の行動調査及び生息地パトロール

繁殖が確認されているエリアにおいて、鳥への影響を軽減した方法で、成鳥ペアの行動を、1月から12月までほぼ毎日観察しデータを蓄積し、繁殖状況等の確認を行いました。また3エリアの生息地パトロールを定期的の実施し、環境の変化や天敵の有無、繁殖期の人の立ち入り等に注意を払いました。



繁殖確認調査



生息地パトロール



調査データ整理作業

2) 環境状況の把握と生息確認調査

釧路管内の1エリアにおいて、昭和40年代初頭の農地改革開始当時、シマフクロウの生息情報があった河川周辺において、現在の環境変化を把握する踏査を適期に実施しました。

かつて蛇行していた河川は、現在、増水時の氾濫防止のため、民家や農地付近の人の影響が多いところほど緩やかな蛇行や直線となっており、川沿いに隣接する河畔林の現在の幅は約3mでした。

北海道林業試験場では、河畔林の持つさまざまな生態学機能について諸機能を満たす川幅が最大樹高程度の20~30mとし、行動範囲が広い生物ほど多く必要、としています。

一方、昭和40年同期にシマフクロウの生息が確認されている別のエリアでは、

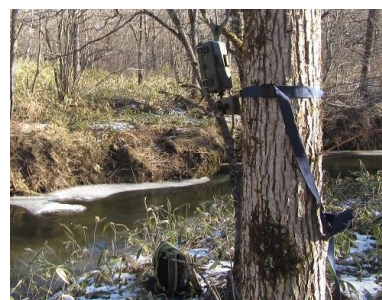
20年前の調査では、魚影が少なかった河川に魚影が復活しているなど環境の変化を確認することが出来ました。前年の調査では、移動中と見られるシマフクロウの若鳥が河川で採食する行動や鳴き声を確認することが出来、本年も調査を継続しています。



過去生息地の環境踏査



生息確認調査



生息確認調査

3) 給餌池におけるシマフクロウ等の利用状況調査及びメンテナンス

通年にわたり、飛来するシマフクロウの採食状況や繁殖行動等を確認しデータを蓄積し、雪解け後の杭やフェンスの整備や厳冬期の除雪など、給餌池のメンテナンスも定期的に対応しました。

4) 調査パトロールのための募金活動

シマフクロウの保護・保全を進めるための重要基盤となる調査や生息地パトロールを実践する人を支援する「守りたい寄付」を、ホームページ、フェイスブック等SNS、会報、イベント、チラシ等で通年呼びかけ、合計56件179,994円が寄せられ、調査機材・備品代、生息地パトロールに係る車燃料代に充当しました。2008年から2015年までこの寄付に合計345件3,238,723円が寄せられ、シマフクロウの保護保全を推進するための生息調査や繁殖確認調査、生息地パトロール、車燃料代、調査機材・備品代に全額充当しました。



調査備品

通年にわたる募金活動を通じて、多くのセクターに、絶滅危惧種シマフクロウとその保護活動を支える人の重要性や、保護活動の延長にある私たち人の安心の暮らしとのつながりについて、気づき、考える機会を提供しています。

2. シマフクロウの繁殖支援

1) 補助給餌

絶滅危機のシマフクロウの繁殖を補助する給餌の実施にあたり、寄付で買ったヤマメを購入し、専用給餌池へ1月から12月までに合計7回、290kgを放流し、通年にわたりシマフクロウが魚を食べに飛来したことを確認しました。

法人が設立した 2008 年から 2014 年 12 月までの給餌量は、累計 62 回 1760 kg となり、巣立った雛は 10 数羽になりました。



通年、定期的に活魚を放流



給餌池に採食に来たシマフクロウ



2) 給餌のための募金活動

「おさかな寄付」募集を、ホームページやフェイスブック等 SNS、会報、イベント、講演、印刷物などを通じて行い、合計 74 件 403,394 円が寄せられ、シマフクロウが食べる活魚購入費に充当しました。

2008 年から 2015 年までにおさかな寄付でシマフクロウ保護に参加した個人や企業は合計約 568 件累計 2,502,338 円となり、全額活魚購入代に充当しました。



イベントによる募金活動

募金活動を通じて、シマフクロウなど生態系の頂点の野生生物の安心の未来と、私たちの安心の暮らしのつながりも伝えていきます。おさかな寄付がきっかけでシマフクロウへの支援に参加し関心を持ったり、さらに環境保全に意識を高め、自らできることを実践していく姿が人材育成や広報事業の場面で見ることができました。親子参加が多かった地元のイベントでは、小学生もおさかな寄付を行い、シマフクロウ・エイドの日頃の活動を紹介するパネル展示もじっくり見る姿が印象的でした。

3. 植林地メンテナンス

はまなか農地水保全協議会助成

シマフクロウの将来の生息地づくりとして、一昨年広葉樹千本を植林したエリアで、苗木のメンテナンスを、6 月から 12 月までに 11 回実施しました。実施にあたり、地元浜中町の環境保全に取り組む NPO 法人えんの森の皆様に草刈り作業をご協力いただきました、植林した木を守る電気柵の効果を測定する調査や、周辺の野生動物の生息状況を把握する調査を、センサーカメラで 4 月から 12 月まで毎日実施しました。



草刈り作業



成長した苗木



冬越し前の忌避剤塗付作業



定点調査で確認されたタンチョウ、シマフクロウ、ヒグマ。調査の成果は、環境教育教材に活用しています。

4. その他

1)シマフクロウの保全エリアにおいて、冬季の除雪を、有限会社石橋組様にご協力をいただきました。本年は爆弾低気圧が特に多発した年となりました。

2) 釧路総合振興局森林室の立木伐採や間伐計画予定地において、本年も引き続き事前協議を行い、周辺のシマフクロウへの影響について注意を払っていただきました。

3) 東京にて開催された、公益財団法人知床自然大学院大学設立財団主催の、「ワイルドライフマネジメントフォーラム特別講演会、野生生物保護管理の最新潮流、IWMC2015(第5回国際野生動物管理学会)から見えてきたもの」に参加し、野生生物保護管理の最新潮流や日本の野生生物保護管理の課題を共有しました。

Ⅱ 普及・啓発事業

調査・パトロール等保護活動で得られた成果や課題を、環境教育や道内外で開催のイベントや講演の開催などで還元し、町内外の皆様と、シマフクロウや保護活動の現状や、保護調査の担い手不足等について情報を共有し、課題解決の方法などについて、参加者の皆さまとともに考える場となりました

1. 人財育成事業

関係機関の研修等を受け入れ、野生動物保護や環境保全の推進に寄与しました。

1)研修講師受託

公益財団法人キープ協会開催の評価検討会「野生動物の生息環境の保護を目的とした環境教育」ワークショップに招聘され、同テーマと関連した取組みを行う国内各地の団体等と野生生物との共生や環境保全に向けた環境教育について、各関係機関と情報を共有しアイデアや共通の課題等を多数検討しました。前年は、キープ協会側が各地の団体を訪れヒアリングを行い、研修に対応しました。

2)保護の担い手等の募集

シマフクロウの保護・調査活動の担い手に関する問い合わせは本年はありませんでした。

3)その他

・講演講師ご依頼・ご相談フォームを作成し、当ホームページやサポーター等に呼びかけを行いました。シマフクロウがおかれている現状や課題、それに向けた当活動の取組みについて、保護・調査に携わる当代表理事がスライドでご紹介しています。
講演ご依頼実績：北海道森林管理局、JICA、浜中町、釧路地区地域子ども会育成指導者研究協議会、公益財団法人知床財団、帝京科学大学

・卒業論文で「シマフクロウの普及・啓発」に取り組む近隣町の大学生が訪れ、質疑応答に対応しました。

2. 環境教育事業

1) 出前授業「シマフクロウ学習」

はまなか農地水保全協議会助成

シマフクロウをテーマとした環境教育「シマフクロウ学習」を、浜中町第一小学校の高学年 5 名(当日 3 名は風邪のため欠席)を対象に実施しました。

屋内プログラムは、導入に体を動かしながら身近な生物を楽しく知るゲームを行い、その後、シマフクロウはどんな鳥なのか？をスライドや実物の羽などに触れながらシマフクロウの概要について親しみながら知る時間としました。

屋内学習終了後は、野外に移動し、森や川で自然観察を行い、シマフクロウとつながりのある生き物や環境、シマフクロウのおかれている現状や保護活動について、体験を通じて理解や関心を深めました。

実施につき、オリジナル教材を屋内外で使用し、学習終了後のふりかえりの時間ではアンケートを実施。児童や先生から、絶滅危機のシマフクロウや地域の自然について、理解や関心が進んだ意見や感想が得られました。

実施後、授業で今回学んだことを新聞形式にまとめ、「2015 年 私とぼくの 小学生新聞グランプリ」に出品されました。

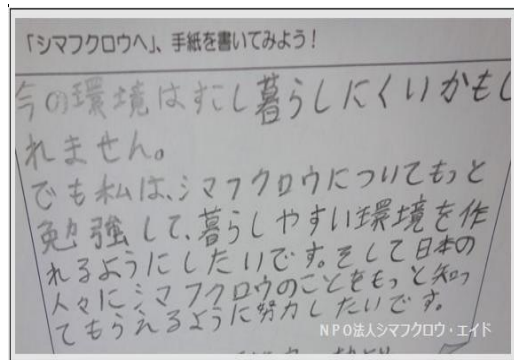
活動実施にあたり、浜中町立茶内第一小学校、浜中町教育委員会、NPO 法人えんの森の皆様にご協力をいただきました。
地元の他の小学校でも、同様の



出前授業の実施を検討いただけるよう、説明に伺いました。



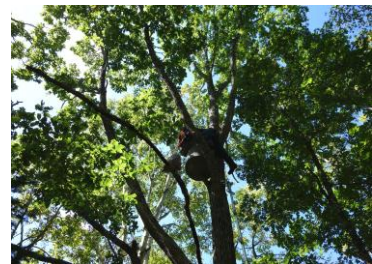
小学生新聞グランプリ出品された作品



児童の感想文

2) 保全ボランティア

シマフクロウの繁殖が最適に行われる準備として、巣箱の状況を点検する作業をサポートの皆さんと9月と10月に各1回取り組みました。森の中で巣材に適した朽ちた木を探し集め、木に設置してある巣箱に巣材を補充しました。日頃からサポーターの皆様には会報を通じて、保護・保全活動への理解を深めていただいておりますが、今回の体験を通じて、シマフクロウの保護活動の地道な取り組みやその大切さを実感していただきました。参加者：大人6名、小学生2名。



ボランティア作業（巣材集め、巣箱運び）

巣材補充

3) 観察小屋の活用

シマフクロウの調査・研究の深化と、次世代を担う子どもたちへの環境教育の充実に向けて、昨年建設した観察小屋を活用して実施しているペアのモニタリング調査の成果を以下の教育に活用しました。

実施時期	対象	人数
7月	地元浜中町のサポーター 環境教育関係者	5名
9月 10月	保全ボランティアの参加者 (サポーター)	8名
12月	東京の私立大学 (グローバル教育の一環における 環境学習実施の下見)	1名



3. 広報事業

シマフクロウが置かれている状況や当活動の取り組みを解りやすく紹介し、活動の意義を伝え、理解や関心の輪を広げる以下の広報に取り組みました。

1)スライド・トークの開催

4月に、東京丸の内にて、ネイチャーセミナー「地域で守るシマフクロウ」を開催し、50名の市民の皆様に参加いただき、絶滅危機のシマフクロウの現状や当活動の取り組みをスライドでご紹介しました。

開催にあたり、3年連続で(株)三菱地所様のCSRで会場をご提供いただき、本年は、大丸有サステイナブルポータル・エコツェリアで開催しました。



今回のアンケートでは、シマフクロウ、野生生物保護、環境保全、シマフクロウ・エイドの順に関心の高い傾向で、具体的な質問では「希少野生動物との私たちとの共生社会に向けて、明日から出来ること」や「シマフクロウの保護・調査を行う担い手の育成や受け皿作りの具体的なアイデア」に、半数の方が示唆に富んだ回答をいただきました。

「まず知ること、知ったことを伝える」、「学校・大学との連携」が多く上げられました。今回は、参加者募集の段階で環境保全や野生生物を守る、以外に身近なことで持続可能な生き方に関心のある層の引き込みも期待し実践したことによって、大学生や20代から30代の女性なども参加をいただき、全体では、多様な立場の皆様に参加をいただきました。アンケートの回答結果は、会報でサポーターの皆様とも共有させていただきました。

7月に、地元浜中町の霧多布湿原センターにて、町内のサポーターや環境教育関係の皆様を対象に、「スライド・トーク in 浜中、地域で守るシマフクロウ」を開催し5名が参加しました。シマフクロウの現状や当活動が誕生するまで流れ等をスライドで紹介した後、保護活動の現場を訪れ、日頃の調査の様子を見学し、活動への理解を深めていただきました。東京で実施した同じ内容のアンケートを行った結果、地域ならではの取組みの提案や意見があがり、今後の事業で反映を検討していきます。



11月に、地元浜中町の霧多布湿原センターにて、一般の皆様を対象に、「スライド・トーク in 浜中、シマフクロウの生態を知ろう」を開催し、町内外から5名の皆様が参加しました。

日頃の調査成果のひとつであるシマフクロウの行動を動画でご紹介しながら、当活動の取り組みを紹介しました。終了後は、参加者の皆様と会場で、シマフクロウのために地域で取組めること、などを中心に意見交換を行いました。3町からご参加いただいたこともあり、地域ならではの取



り組み事例もあげていただき、今後の事業で検討していきます。

2)ホームページやSNSによる課題発信

ホームページやフェイスブック等 SNS で活動状況や支援の呼びかけを定期的に行い、サポーターは197名、寄付は233件(56件減少)となりました。

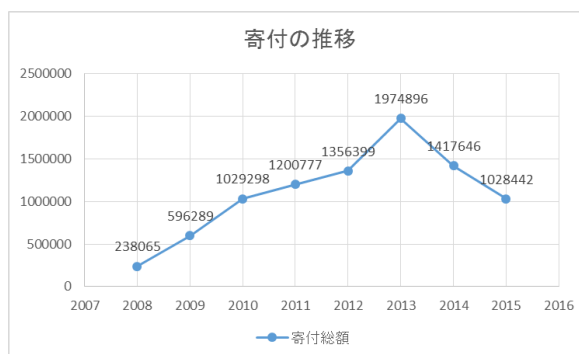
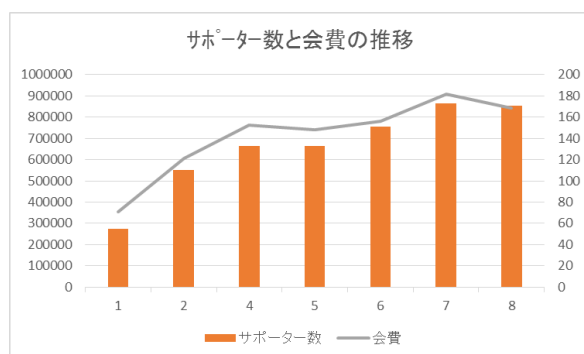
従来までの会員や寄付の各名称を改め、会費や寄付のクレジットカード決済を導入しました。

以下は、サポーター、寄付の推移と、SNSの支援状況となります。

① 支援状況

2015年1月1日～12月31日

	合計数	合計金額
サポーター	197	844,000
寄付	233	1,048,442
フェイスブック	1561(ファン数)	
ブログ	78797(閲覧数)	



2015年度に寄付をいただいた法人・団体の皆様

- ・アドニス・インタナショナル(株)
- ・gooddo 株式会社
- ・公益財団法人知床財団
- ・公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部
- ・認定 NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト
- ・NPO 法人えんの森
- ・WHY NOT..Club
- ・ふくろう茶房

2015年度ご助成

- ・はまなか農地水保全協議会

2015年度技術支援

- ・有限会社石橋組(冬季除雪)

3) イベントによる広報

・6月に、北海道釧路市の団体 WHY NOT..Club 様が、昨年に続きシマフクロウ・チャリティライブを開催され、当活動の紹介や、当日の収益をシマフクロウが食べる魚代としてご寄付をいただきました。



・5月と9月に、北海道浜中町にて、地元の音楽団体 HAMANAKA no NE 様が音楽イベントを開催され、会場に当活動チラシやパンフレットを設置して、広報にご協力をいただきました。



・9月に、神奈川県川崎市にて、ほんとほんと様主催で「科学の本を楽しむイベント・たんとたん 2015」が1日開催され、サポーターの皆様が主導となって出店し、当団体オリジナルの絵本の読み聞かせや、活動広報を行っていただきました。

参加者：親子、出版関係者等約30名。



ボランティアによる活動広報 絵本「はじまり物語」読み聞かせ

・11月に、北海道浜中町にて、HAMANAKA HEARING LABO 様主催のイベントが町内廃校を利用して2日間開催され、昨年に引き続き出店し、シマフクロウの繁殖を支援する冬のおさかな募金に取り組みました。地元特産品や手作り雑貨、マッサージ、ダンス、音楽などが繰り広げられ、町内外から約600名余りが来場しました。

昨年来場した子供たちからのリクエストで、今年は、シマフクロウに関連した絵本の読み聞かせを1日2回開催し、親子58名に参加いただきました。

シマフクロウを守る活動が地域にもたらす効果を図式化したパネルやシマフクロウの動画なども、子供から大人まで興味深く見ていただきました。



出店者の皆さんと集合写真



シマフクロウの絵本の読み聞かせ

4) 印刷物による広報

① サポーターへの情報発信

サポーター向けに発行してきた会報を、本年より毎月から隔月の発行に切替え、内容をリニューアルし、2015年12月で79号を発行しました。シーズン毎のシマフクロウの行動や保護活動の様子、関連ニュース等を紹介し、支援いただいているサポーターの皆さんへ活動への一層の関心や理解の推進に取り組みました。



シマフクロウ・エイド会報

本年から新コーナー「地域紹介コーナー」が加わりました。当活動が目指す、「地域が一体に取り組むシマフクロウ保護」推進の一環で、地元の団体等の取り組みの紹介を始めました。



② 地元への情報発信

・関係地域一体のシマフクロウ保護の重要性に理解や関心を進めるために、浜中町広報誌で地域住民に向けた広報を行い、浜中町役場、浜中町教育委員会に協力をいただきました。



地域広報誌、winwin 広告

・当会報に本年より掲載を始めた「地域紹介コーナー」に掲載希望の地元の団体、宿、グループ、行政などの取り組みをアピールする win win 広告の募集を始めました。

1回の広告代がシマフクロウの成鳥1羽約1回分の食事代になり、掲載団体等の情報が会報やフェイスブックなどで広く紹介される仕組みとなります。シマフクロウと関係地域の両方にとってメリットのある企画としました。

③ 広く多くのセクターへの情報発信

・広く多くのセクターへ向けて、環境指標となるシマフクロウの現状や生息環境の保全の促進に向けた理解や協力の向上を目指し、当活動概要チラシをリニューアルを行い、関係機関や設置協力先の店舗・宿20箇所に設置を行いました。



活動概要

5) メディア取材

北海道釧路新聞社に、当活動の取材を受けました。

以上

団体概要

組織名称

団体名称：特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

設立：2008年6月

役員

代表理事	菅野正巳	環境省委託シマフクロウ保護調査員
副理事	金澤裕司	羅臼町教育委員会自然環境教育主幹
理事	不破理江	ロシア語通訳
監事	山崎貞夫	山崎林業(株)代表取締役

スタッフ

事務局長 菅野直子

事務局スタッフ

川村義春
関上伸一
吉田俊彦
寺嶋秀之
三浦春美

*役員・スタッフは、2016年2月27日通常総会後のものとなります

沿革

- 2008年 NPO 法人シマフクロウ・エイド設立
保護・保全：調査・パトロール：複数エリアでペアのモニタリング、生息確認調査実施。以後、通年継続実施。
保護・保全：おさかな寄付で補助給餌を開始。以後通年継続実施。
広報：目的別の寄付募集、会員募集 開始。会報「コタコカムイ」発行開始。
ブログ「カムイの森だより」開始。
人財育成：講演会「教えて！シマフクロウ」、保護調査員養成セミナー開催。
環境教育：「シマフクロウ博士になろう！」を霧多布湿原センターと共催。
エコツアー：会員限定で開始。
- 2009年 保護・保全：地元造船所と共同で巣箱を作成し、生息可能地に環境省の巣箱かけ事業で山林に設置。
人財育成：保護調査員養成セミナー開催。
人財育成：講演会「教えて！シマフクロウ・住まい編」開催
環境教育：「調査体験・バンディング！」を霧多布湿原センターと共催。
- 2010年 広報：「浜中シンポジウム・海の生物多様性を考える」にパネル出展。
- 2011年 受賞歴：北海道新聞・北のみらい奨励賞 受賞。
広報：「活動パネル展」開催、以後毎年開催。(2014年からはイベント内実施)
広報：「シマフクロウの現状と保護の取組み講演会」にパネル出展
人財育成：帝京科学大学にて、当活動について講演。
- 2012年 広報：フェイスブックで活動広報開始。
- 2013年 環境教育：出前授業「シマフクロウ学習」を地元小学校で実施。以後毎年実施。
スライド・トーク「地域で守るシマフクロウ in 東京」開催、以後毎年開催。
植林：将来の生息地作りを検証する植林を実施。
以後、毎年定期的にメンテナンスを実施。
人財育成：行政、NGO、公益財団、自治体より講演講師受託。
広報：活動パネル展を開催。参加型展示や大型パネル絵本を新たに組入れ。
- 2014年 保護・保全・環境教育：調査の深化と教育への活用を目的に観察小屋制作。
人財育成：JICA より希少野生生物保護をテーマに講師受託。
人財育成：釧路地区地域子ども育成指導者研究協議会より講師受託。
広報：地元のイベントにパネル出展。
エコツアー：一時終了。
- 2015年 保護・保全・教育：観察小屋を活用した調査開始。環境教育へ活用。
広報：地元のイベントにパネル出展、参加体験プログラム初実施。
広報：「スライド・トーク in 浜中、in 東京」開催。

NPO法人シマフクロウ・エイド
〒088-1364 北海道厚岸郡浜中町茶内若葉 2-36
電話・ファックス：0153-65-2183
Email:aid2960@nifty.com
URL:<http://homepage3.nifty.com/fish-owlaid/>